



発行
寂静山 大光寺
住職 藤範雅史

庫裏の耐震改修工事のお知らせ

◆ 今般、大光寺の庫裏（お寺の家族の住まい）の耐震補強並びに改修工事を行うことになりました。現在の庫裏は昭和53年に建築され、築40年以上を経過し、耐震診断を受けたところ、地震により崩壊する恐れが大きいの診断結果を受けたことによるものです。

◆ よって、次の通り耐震補強工事並びに改修工事を行いますので、ご門徒の皆様には何かとご不便をおかけいたしますが、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

● 工事期間
令和2年7月下旬から
令和2年12月下旬
(予定)

● 設計監理
橋本建築設計事務所
和歌山市吉礼90-6

● 施工業者
株式会社 奥田材木店
堺市堺区砂道町2丁1-1

● 工事期間中の連絡先について
工事期間中は庫裏は無人となります。よってお寺に御用のある場合は、☆前住職並びに前坊守の住居にご連絡をお願いいたします。

また、お寺の電話は従来通りつながりますが、坊守の電話に転送されますので、

今号の目次

- 庫裏の耐震改修工事のお知らせ・・・P1
- 役員就退任について・・・P2
- 教えて！住職・・・P3.4
- 新型コロナウイルスによるお参り等の対応について・・・P5
- 今月の法話・・・P6
- 新型コロナウイルス感染症に関する「念仏者」としての声明・・・P7
- お寺からのお知らせ・・・P8

前住職連絡先
43-2022
寺院連絡先
42-3055

繋がるまでしばらくお待ちください。
工事期間中お寺の梵鐘（鐘）は鳴りません。

大光寺役員就退任のお知らせ

令和2年2月29日大光寺責任役員・総代、また、同年3月31日大光寺仏教婦人会役員の任期満了に伴い、それぞれ次の方々が、就退任されましたのでお知らせします。

責任役員

藤範 奈津子

岡本 純夫

【任期4年・敬称略】

寺院における責任役員は、法人事務の決定に加わるほか、住職（代表役員）を補佐して、寺門の護持発展に努めることを役割としています。

総代

岡本 純夫

昼場 政美

井上 勝彦

【任期4年・敬称略】

門徒総代は寺院の諮問機関として寺院の門徒のうちから衆望の帰する者について、住職を補佐して、寺門の護持発展に努め、その諮問に応じて意見を具申することができま

仏教婦人会

会長 西本 美智代
副会長 岡本 千敏

役員計

【任期2年・敬称略】

うお願い申し上げます。

●退任

総代 花川 勉
仏教婦人会

会長 坂下 美栄子
副会長 林 みゆき
役員 楠本 チエ子
会 計 廣岡 礼子
西岡 鈴子
永海 つるえ
今岡 英千代
井本 美津子
西本 江津子
花川 秀子
石井 まよ
西井 有里子

長らくお寺を支えていただきました。厚く御礼申し上げます。また、これから寺門発展・お念仏繁盛のためご協力いただきますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

教へて住職!

今回の「教えて住職!」
一つ目は、お布施が気にな
ります・・・としまし
た。

これは、ご門徒様から
の質問というより、住職
のほうから皆様に『お布
施』というものの性格を
知っておいていただきた
いとの思いから書かせて
いただきました。実際お
問い合わせが多いのは2
つ目のお布施の表書きの
ほうなのですが、それは
後半に書かせていただき
ます。

さて、法事や葬儀・祥
月参りなどで僧侶を招い
て仏事を勤める時、御布
施が渡されますが、この
お布施の『額』が気にな
る人がいらつしやるよう
です。「どれ(いくら)
くらいお包みすればよい
のでしょうか。あまり少

ないと失礼ですので・・・」
と仰られます。

多すぎて困ることはない
のですが、要は相場を聞
きたいのかと思います。

そういうお尋ねがあつ
ても私はなるべく金額を

お布施が気になります・・・
そのお布施、表書きをどうすればいいんでしょう?

布施というのはそもそ
も仏教の大切な実践行の
ひとつで「ほどこす」と
いう意味です。その布
施行には、法を説く「法
施」、財物を施す「財施」、
畏怖の念を抱かせない
「無畏施」があります。
金封の御布施は、このう
ちの財施にあたります。

言わないようにしていま
す。それは、御布施が
「自ら進んで納める」と
いう性質のものだからで
す。大切なことは「喜ん
で納めさせていただく気
持ち」です。金額を気に
するよりもっと考えて
いただきたいのはお布施
本来の意味です。日常生
活の習慣化の中で、私た

ちはつい御布施も一種の
『報酬』のようにとらえ
てはいないでしょうか。
僧侶が読経したことに対
する代価、御礼として扱っ
てしまいがちです。稀に
表書きに「お経料」とか
「回向料」と書かれた金
封に出会いますが、これ
などはまさに僧侶への報
酬の感覚です。

さらに、これらの布施
を行う場合、**施す人・施
される人・施す物の3つ
が清浄、清らかでなけれ
ばならない**とされます。
つまり見返りを求めたり、
何かの魂胆があつたりす
れば布施にはならないの
です。
浄土真宗ではこうした

布施を、善根を積んでさ
とりに近づくための修業
とはせず、阿弥陀様の
間違いない救いを喜び感
謝する報恩行としていま
す。御布施は僧侶への報
酬でも住職のお小遣いで
もなく、仏様への報謝と
して捧げるものです。
「坊主丸儲け」とよく言

われませんが、実際儲かっ
ているお坊さんは全国で
もそんなに数多くいませ
ん。この言葉が出てきた
のは、おそらく「宗教法
人非課税」があるのかと
思います。ご承知の通り
宗教法人には税制面でか
なりの優遇を受けている
ことは確かです。ですの
で、住職が皆様からお預
かりしたお布施は消費税
も所得税も法人税もかか
らずに法人に入ってい
ます。

ここで大切なのは税制
の優遇を受けて入ってい
くのは大光寺という宗教
法人であるということ
です。この宗教法人大光寺
に入ったお金を、住職が
給与としていくらか貰う
と、当然個人収入とみな
され、所得税などの税金
は課税されます。給与と
いう収入面からみれば私
個人の収入に関する税金
優遇は当然のことながら
一切ありません。ですの

で、「坊主丸儲け」は当てはまらないなあ・・・と思っています。

冒頭お布施の金額を聞かれてもなるべく答えないうと申しましたが、実際は「〇〇万円以上でお願いします。」と答えることもあります。これは、大光寺というお寺（伽藍やお飾り）を守っていくうえで、必要最低限のお金がどうしても必要になります。そのお寺を維持していくための資金を確保するために最低金額をお願いすることはあります。

幸い私はご門徒の皆様のご理解を得て、お寺を離れて仕事をし、給与収入を得ていますので、皆様からお預かりした御布施から私への給与は1円もいただいていません。すべてお寺を維持管理するために大切に使用させていただきます。

そのお布施、「報謝の

念から仏様に捧げるもの」と書きました。浄土真宗の仏事で捧げるものはずべてこうした御布施になります。

葬儀や法事で施主が僧侶に差し出す金封には「御布施」と書かれています。先にも申し上げたようにこのお布施は住職への報酬ではなく、仏さまへのお供えです。差し出すときには「おことづけして申し訳ございませんが・・・」といった言葉を添えると丁寧です。僧侶へ渡す金封で「御布施」以外の「御礼」「御経料」「回向料」などは趣旨から言ってもふさわしくありません。

また、他家の葬儀や法事に参列した場合ですが、多くの仏事関係の本には「御霊前とする」と書かれています。故人の霊に捧げるものではなく、仏さまに捧げるものなのです。

で、書くなら「御仏前」です。他には「御供」「御香典」「御香儀」などが使われます。

ついでに書きますと、近年の葬儀で「御香典」を受け取らないケースが多くみられます。「故人の遺志により御香典の儀は謹んで辞退致します」などと書かれた看板があります。悪く言えば「死人に口なし」であり、お亡くなりになられた方に責任を押し付けているようにも見えます。故人の遺志ではなく、遺族の意思と言った方が当てはまるのかもしれませんが、香典返しは面倒なのか、参列者にお金の負担をかけたくないのかわかりませんが、仏さまに捧げる「御香典」をさも自分のお金のように思っているならば心違いです。御香典は断るものではありません。

- ・ お布施は住職への報酬ではなく、
仏さまへの報謝
- ・ お布施は仏法を喜ぶ気持ちから上げるもの
- ・ 表書きは「御布施」でよい
- ・ 「御霊前」「御経料」「回向料」
は使わない
- ・ 「御香典」は辞退すべきではない



新型コロナウイルス【COVID-19】に伴う お参り等対応について

新型コロナウイルスにより、不安の中に生活を送っておられることと存じます。私も、あたりまえと思っていた寺院活動が次第に今まで通りできなくなっていることに戸惑いと不安を覚えます。しかし、こういう不安で先の見えにくい時にこそ本領を発揮して下さるのがお念仏のみ教えではないかと思えます。こういう時だからこそいつも以上に手を合わせることを、仏様と向き合うこと、仏法を聴聞することを大切にしたいものです。

これまでのところ、ご自宅へのお参り、年回法要等の法事、葬儀関連の仏事はいづれも予定通りお勤めさせていただいておりますし、今後の予約も変わりなく受け付けております。しかし、このウイルスに対するワクチンや治療薬が開発されるまでの間、当面は以下のように進めてまいりますので、何卒ご理解のうえ、ご配慮・ご協力いただきますようお願いいたします。

合掌

●祥月命日

少人数でのお参りですので、特にご連絡がない限り今まで通り伺いますが、家人に風邪症状のある方がいらっしゃる場合は休止させていただきます。

●年回法要・法事

自宅：部屋に応じた密集しない人数に絞ってお参りください。

必ず窓を開ける等の換気をしてください。

茶菓は最小限にし、会食はしないほうがよいでしょう。

なるべく公共交通機関を利用せずに集まりましょう。

家人に風邪症状のある方の参拝はご遠慮ください。

本堂：自宅に準じますが、20名程度までは広く座れます。

換気も抜群にできます。

※何れの場合もお参りいただく方にはマスクの着用をお願いいたします。

●葬儀等

今まで通り執り行いますが、風邪症状のある方の参列はご遠慮ください。

また、葬儀会館は密閉・密集になりやすいため、この機会に本堂での葬儀執行もお考えください。

親族は20名程度まで余裕をもって座れます。

※何れの場合も換気・手洗い・人と人との距離の保持にご配慮ください。

※住職自身も配慮して伺いますが、読経中のマスクは出来かねます。

今回も私の友人である、北海道の名和先生から仏さまのお話を寄稿いただきました。



新型コロナウイルスによる混乱が続いています。私のお寺は3月の常例法座から休座。小学6年生と2年生の息子達は休校が長引き、家にもり友達とも会えず、親としてどうしたらよいのかと思ひ悩む日々が続いております。きつと大光寺様のご門徒の皆様も、ストレスや不安を抱えている方も多いのではないのでしょうか。

混乱にともない、多くのニセ情報(フェイクニュース)が出回っているのも気になる所です。トイレットペーパーがなくなるという情報が流れると、人々は

不安になり、ドラッグストアに走り、本当に必要な方が買えないという事態がありました。Zエスの番組で特集されていましたが、フェイクニュースが世間に広まるスピードは、「事実」よりも二十倍も早いのだそうです。中でも、驚き、嫌悪感、怒りといった負の感情に訴えかける情報が特に拡散するとのことです。仏教には無明

闇を照らすともしび

(むみよう)という言葉があり、まるで真つ暗闇の中にいるがごとく、物事のありのままの姿をなかなかとらえられない私の姿を言う言葉なのですが、何が本場でどれが嘘なのかわからない状態は、まさに「無明」そのものと言えるのかも知れません。様々な情報に振り回されないようにすることの大切さと難しさを実感します。

一昨年前、北海道では胆振東部地方を中心に最大で震度7の大地震があり、その時に北海道全体が停電する「ブラックアウト」という事態が起きました。電気がなかなか復旧しない地域では、ローソクの明かりを頼りに何日も不安な夜を過ごした方がいらっしやるほどでした。そんな中、ある方が「真つ暗な中、部屋を歩く

と、いろんなものにぶつかってしまふ。その時、痛い！誰だ！ココに何をおいていたんだ！と腹が立ったんだけど、電気がついてよく見てみたら、それは椅子やテーブル等、普段自分が大切にしていたものでした。と、しみじみとおっしゃっていたのが印象的でした。私は本当に大切にすべきことに普段から気づけて

いるだろうか、大事にしななければならぬものを時に邪魔にさえしていないだろうかと、その方の言葉からハッとさせられたことを記憶しています。

親鸞聖人は、

弥陀の誓願は無明長夜のおおきなるともしびなり 『尊号真像銘文』(註釈版聖典670頁)と、お示しく下さいました。

まるで暗闇の中を歩むがごとく、物事のありのままをみることができず、どこへ向かっていく人生なのかわからずにいるこの私(無明)にむかつて、「われにまかせよ、かならずあなたを救う」と誓い願ってくださっている阿弥陀様のお心を、灯火(ともしび)とたとえられました。

闇の中の光は、目の前の物やこの私の姿のありのままの姿を照らしだし、優しく包み、私の歩む道をも示してくれます。

人と人が心通わすことの温もり、お互いいたわり思いやる言葉がけや行動、多くの方々のお陰様によって生きていること等々、非常事態が故に改めてその大切さに気づかされることがあります。見過ごし見逃すことが多い私です。そんな私にとってみ教えを聞かせていただくことは、暗闇の中に灯火をいただくようなものでありましよう。

自他ともに心豊かに生きる道を照らし出してくださる阿弥陀様のお言葉を心のよりどころとして歩んでいきたいと、この状況の中に改めて思うのです。

合掌

新型コロナウイルス感染症について総長から声明が出ていますのでお読みください

新型コロナウイルス感染症に関する「念仏者」としての声明

現在、新型コロナウイルス感染症は世界中に拡がり、収束する気配を見せていません。日本でも緊急事態宣言が発令されるなど、状況は新たな段階に入っています。

まず、このたびの新型コロナウイルス感染症によりお亡くなりになられた国内外の多くの方々に謹んで哀悼の意を表しますとともに、罹患されている皆さまに心よりお見舞い申しあげます。さらに、特に高い感染リスクにさらされながらも、懸命に治療・対策にあたられている医師、看護師をはじめとする医療従事者の方々に深く敬意と感謝を表します。

こうした危機的な状況において、世界中の人びとが共に力を合わせ、励まし合って対応しています。しかし、症状が出ないために感染に気づいていない人の行動が、感染拡大の一因となっている場合もあるのではないかと指摘されています。感染症の危険性や対処法を正しく理解し、実行するとともに、差別や偏見が拡がらないよう、一人ひとりがお互いを思いやり、注意深く行動していきたいと願っております。

釈尊(しゃくそん)が明らかにされた苦しみの根源である無明煩惱(むみょうぼんのう)、また親鸞聖人(しんらんしょうにん)が「煩惱具足(ぼんのうぐそく)の凡夫(ぼんぶ)」という言葉でお示しになった私たち人間の根本に潜む自己中心性に思いをいたし、このような時にこそ、人と喜びや悲しみを分かち合う生き方が大切ではないでしょうか。仏教には、「あらゆるものは因縁(いんねん)によりつながり合って存在しており、固定した実体はない」という「縁起(えんぎ)」の思想があります。新型コロナウイルスの感染拡大の原因は人との接触であるとされ、本来大切な人との「つながり」が、今は安心感ではなく、不安をもたらすものとなってしまっています。しかし、「つながり」を表面的に捉え、危険なものとして否定的に考えてはなりません。世界的な感染大流行という危機に直面する今だからこそ、私たちは仏教が説く「つながり」の本来の意味とその大切さに気づいていく必要があります。

今重要なことは、仏智(ぶっち)に教え導かれ、仏さまの大きな慈悲(じひ)のはたらきの中、共に協力し合って生きる大切さをあらためて認識し、感染拡大をくい止めることです。緊急事態宣言がコロナ危機を克服してくれるものではありません。この困難を打開できるか否かは、多くの関係者のご尽力とともに、私たち一人ひとりの徹底した適切な行動にかかっています。

私という存在は、世界の人びととの「つながり」の中で生きているからこそ、やがて、共にこの苦難を乗り越えた時、世界中の人びとと喜びを分かち合えることなのでしょう。それぞれの立場において、この難局で法灯(ほうとう)や伝統を絶やさないために何ができるかを考え、「そのまま救いとる」とはたらいてくださるお念仏の心をいよいよいただき、共々に支え合い、力を合わせるのです。誰もが安心して生活できる社会を取りもどすことができるよう、精いっぱいにつとめを果たしてまいります。

2020(令和2)年4月14日

浄土真宗本願寺派総長 石上 智康

本堂に設置させていただきました「東日本大震災復興支援金」募金箱への昨年の募金額は

・ 14,592円

でした。ご門徒の皆様のご協力に衷心より御礼申し上げます。皆様からお預かりした募金は、浄土真宗本願寺派災害対策本部「東日本大震災災害支援金」にお送りさせていただきます。被災地を忘れることなく引き続きご協力賜りますようお願い申し上げます。





大光寺のホームページを開設しました。ご門徒様向けの情報を発信していきましますので、どうぞご覧ください。

ホームページ開設！



本堂

法事等で本堂を使用する場合、本堂使用冥加金として金10,000円のご進納をお願いしています。

護持費の納入をお願いいたします

毎年すべてのご門徒様に護持費(年間10,000円)の納入をお願いしています。お納めいただきました護持費は本堂をはじめとする諸堂宇の維持管理や、仏さまへの御仏飯・お花・お線香等のお供えに充てさせていただきます。何かと厳しい折大変恐縮ですが、ご理解・ご協力賜りますようお願い申し上げます。

お願い

ご法事等、お参りのお電話をいただく際、日程に比較的余裕をもってご連絡くださいますようお願いいたします。少なくとも希望日の1カ月前を目途に、候補日を2つか3ついただくと大変助かります。職場での勤務調整をしなければいけませんので、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

住職直通の携帯電話はコチラ⇒ 090-7488-5765

ご祥月法要のお参りについて
 住職を継職してから、月忌参り(常速夜)を休止しております。
 祥月命日(故人の正当のご命日)はお参りさせていただきますので、ご希望の方はお寺までご連絡ください。
大光寺 0736-42-3055

